

令和5年度 市長と語るまちづくり懇談会（三丘地区）会議録

日 時：令和5年8月8日（火）午前10時00分から午前11時30分まで

場 所：三丘市民センター

テーマ：「地域で語るまちづくり」

出席者：“ほっと三丘”コミュニティ協議会の皆様

周南市長

シティネットワーク推進部（市民の声を聞く課長、シティプロモーション課長 ほか）

熊毛総合支所（総合支所長、地域政策課長 ほか）、三丘市民センター（所長）

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 参加者自己紹介
- (3) 懇談
- (4) 閉会

2 頂いた主な御意見等

(1) 高齢者・福祉の問題

【地域】

- 令和5年より、2名体制で地域福祉コーディネーターが活動している。100歳体操を市民センターで週に1回、行っている。体操だけでなく、クイズや脳トレも行っている。高齢者から「笑えるから楽しみが増えた」と言われ、やりがいを感じている。高齢者を喜ばせるためにマジックの練習もし、披露できたらよいと思っている。
- 追迫市営住宅は、熊毛北高校の近くで高台にあり、空き家も目立ち、高齢者も多い状況である。福祉員の配慮で草刈がされているが、追いついていない。バス停も遠く、出かけることができない人が多い。月に1回、市住の集会所を使ってコミュニティカフェを行いたいと考えている。熊毛北高校の生徒との交流を学校にも相談している。独居高齢者は、家にこもりがちになり、社会との接点が無くなるのが問題で、外に出て行動できないと認知症も進み行動できなくなる。肉体的にも衰え気力がなくなる。免許の返納を進めるのならば、他の交通手段を考え、高齢者が生き生きと暮らせる手助けを地域ができればいいと考えている。コミュニティ交通があれば、高齢者にとって出かけることだけでなく、介護予防にもつながるのではないか。
- 地域でも、公共交通のことについて話していきたいと思っている。また、熊毛北高校からも地域にある高校として、その特色を生かして地域と一緒に活動できたらと話をいただいている。周南公立大学もあるので、地域で工夫しながら活動できる人を増やしていきたい。高齢者の問題は、ずっと続く問題であるので良い方向性が見いだせるように、協力を願いたい。
- 社協では、独居高齢者の見守り活動を主にしている。三丘地区で約100人程度おられる。来月、敬老会を行うが、演芸などの催しもあるが、普段出かけられないお年寄りに来ていただき、交流していただく姿を地域も見たいと思っている。毎年、民生委員が高齢者実態

調査を行っているが、なかなか実態が見えてこない。潜在的な不安感を持っている。行政側からも出せる情報であれば積極的に出してほしい。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 先日、安田の糸あやつり人形芝居を見せていただいた。その時に、追迫団地にも出かけて、現状も見せていただいて理解した。地域福祉コーディネーターのお年寄りを喜ばせてあげたいという優しい気持ちが高齢者にも伝わり、幸せで温かい気持ちになれると思う。その時に、熊毛北高生が文化祭で披露すると聞いた。糸あやつり人形芝居を高校生も継いでいることを皆さんも知っていただくことができ良かった。
- 民生委員・児童委員の活動も、ご協力いただき感謝申し上げます。地域では、個人情報に縛られすぎている部分もあると感じられていると思う。
- ※ 個人情報の保護の観点はあるが、地域福祉コーディネーターさん、福祉員さん、民生委員・児童委員さんには見守りが必要な家庭の情報は可能な限り提供がなされていると聞いている。家庭への訪問や活動される中での情報は共有してほしい。また、活動でお困りのことがあれば総合支所に相談してほしい。地域と行政が連携して、取り残される方がないようにしっかり取り組んでいきたい。

(2) 地域の安全

<通学路等の安全>

【地域】

- 地域では、横断歩道の白線が消えた箇所、新たに横断歩道を設置してほしい箇所、歩道が狭い箇所がいくつかある。小学校でも安全計画を立てられて、市教育委員会へも情報はあがっている。以前、警察の方が夏休み中に交通状況を調査され、徒歩で歩行する方がいない所に要望されてもなかなか難しいと言われた。多くの家庭が共働きで、登校時に子どもを見守ることはできない。横断する人数で判断するのではなく、何かいい方法はないか一緒に考えてほしい。子どもの登校する姿を見て、心を痛めている。
- 自治会連合会でも以前、横断歩道の白線が薄くなっている箇所は要望を出してかなり改善された。継続して自治会連合会の方でも協力していきたい。
- 県道であるが、熊毛インターもあり交通量はかなりある。地域皆で考えながら子ども達の安心、安全な通学路にしたいと考えている。これらに関しては、要望書を出す予定である。

【市長】

- お示しいただいた箇所は、県道でもあるし、横断歩道は警察の公安委員会の所管など市では直接改善を図ることができない箇所ではあるが、市民の安心安全は確保しないといけない。県道は交通量も多いし、認識はしている。人数が少ないからという理由で、市も放っておくことができない。地域の皆様と一緒にあって警察など関係者と話す機会を作らないといけないと思う。

<徳修館公園周辺の管理>

【地域】

- 徳修館は、三丘地域では一番大きな文化財である。周りに植えられて木が、アメリカカエデで大きくなる木である。毎年、落葉で樋が詰まり、雨漏りなどになる。これまでも剪定はしているが伐採はできないと言われた。一部は伐採した方がよいのではないかと思う。我々も高齢になり地域での管理が難しくなっている。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 落葉が屋根などに堆積すると、建物を傷めることは充分認識している。樹木は大切なものであるが、課題をはらんでいるのであれば伐採も必要なのではないかと思う。担当部署にも今日伺ったことは、きちんと伝える。
- ※ 徳修館周辺の樹木は、熊毛産業土木課が現場を確認させていただき、徳修館に携る皆さんに話を聞きながら、どのような形が良いのか、対応ができるのか検討していきたい。予算の問題ですぐの対応にはならないかもしれないが、将来的に考えていきたい。

<災害時の対応について>

(避難について)

【地域】

- 7月の大雨で、三丘市民センターに避難所が開設された。三丘市民センターは豪雨など洪水時の避難所は利用できないようになっている。5年前の豪雨の時に、市民センターへの浸水はなかったが、近くの道路は冠水して通行できなかった。市民センターが避難所に開設されることは、地元では不安の声がある。7月の雨は、避難指示が夜に出たので避難ができなかったと聞く。早めに避難指示を出すようお願いしたい。
- 住民が早く非難できるところを、地域でも十分周知をしないといけないところである。率先避難の活動も地域の自主防災の方でも取り組んでいるので、地域と行政が、話ができるとよいと思う。河川には、定点カメラが設置されている。なかなか、地域でご存じない方がおられる。8月の自主防災の会議でも、防災危機管理からも説明があった。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 平成30年の豪雨の際には、三丘地域は災害があったので地域の皆さんが、一生懸命考えてくださっている。市民センターを災害時に使える時、使えない時があるということを皆さんに説明する。
- ※ 避難所の開設については、教訓を生かして空振りを恐れず、状況の悪化することに先んじて避難所を設置している。防災危機管理課と熊毛総合支所が両輪で、地域の住民を守ろうと有事の対応をしている。前回の災害時の説明をすると、大雨警報、洪水警報の発令がされた中で避難所の開設を行った。島田川の氾濫を危惧されたと思うが、その時点は、島田川水系における島田川氾濫警戒情報の発表はされていなかったこと、そしてその時点の水位の状況から判断して、今回は三丘市民センターの避難所の開設を行った。もしも、状況がそれ以上の悪化が想定される場合は、例えば、熊毛北高校などのその他の避難所を開設して運営していきたいと考えている。

(小松原地区の避難について)

【地域】

- 小松原地区は、5年前の島田川が氾濫しようとしている時には、避難所が三丘市民センターになると道周りは、冠水してしまっ行って行き場がなかった。三丘小学校へも避難したが、もう少しで小学校も浸水しそうなくらい水が来た。小松原地区の人にとっては三丘市民センターへ行くことが怖い場合もある。市が協定を結んでいるケアハウス三丘であれば、安心して行ける。避難場所としての検討を市で再考してほしいと思う。
- 小松原地区の県道から山側は、土砂災害警戒地域になっている。安全な地域は少ない。あわせて検討してほしい。
- 以前消防関係者と話した時に、ケアハウス三丘は6階建てなので土砂が下層部にきても上層部への縦避難で安全が確保されることもあると聞いた。是非、このことも念頭に入れておいてほしい。
- 避難所によると、洪水や土砂災害時には利用できない箇所がある。他の避難所についても、地元でも周知をしないといけないと考えている。率先非難の活動も、自主防災の方でも取り組んでいるので地域や行政と話ができればよいと思う。
- 川を渡っての避難は、危険も多いので、小松原の人については、地域内で避難するところを考えてほしい。
- 空振りでもいいから早く避難を出すということが必要。災害によっては避難場所がない。
- 前回は島田川の河川もギリギリのところまで来ていた。みんなで早めによく話し合い、地域で納得いく方向で検討したらいいと思う。地域も早めに避難する意識を徹底することも必要だと思う。皆で一緒に考える場をお願いしたい。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 避難所については、地域と行政と一緒に協議していくことが必要だと思う。
- ※ ケアハウス三丘は、協定を結んで災害時には利用することの状況は整っている。ただ、ケアハウス三丘の敷地は、土砂災害警戒区域に入っており、土砂災害警戒情報が出ている場合は避難所とすることは難しいことも懸念される。状況にあわせて避難所の開設となる。避難所の開設については、空振りを恐れず行っていきたい。自主避難についても、考えていただきたい。今回のご意見は、防災危機管理課にも伝える。地域の皆さんと本庁や総合支所がしっかり協議しながら検討してまいりたい。

(三丘市民センター周辺について)

【地域】

- 市民センターの入口付近は、避難する際に転落などの危険がある。安全に利用できるように対応してほしい。

【市長】

- 市民センターの入口については、特に暗い状況で避難する際には危険というご意見については、市民センターと熊毛産業土木課の職員が現場を確認し、どのようなことができるのか、考えていきたい。

(3) 移住・定住について

【地域】

- 平成 27 年から「みつおずっと子どもがいるまちプロジェクト」を立ち上げ、地域で取組をすすめ、移住の方が 9 組、親元などに家を建てたりした方が 15 組、大人 43 人子供が 29 人でこれが 8 年間の実績です。壁にぶち当たることもありましたが、視察に行ったりして地域で三丘版の受け入れ体制を作っている。
- 去年、三丘スタイルのおもてなしをしたにもかかわらず、空き家がきれい、自然環境が良かったという理由で萩市を選ばれたということがあった。萩市の場合は、空き家の持ち主にも補助金が出るし、移住される方への補助金など周南市よりかなり手厚い制度になっている。移住して来られる方は、きれいな家に入りたいと思う。三丘の場合は空き家の問い合わせがあった時は、地域の人が現地に行って空き家の説明や生活圏の案内をするなど、これまでおもてなしをやっている。
- 空き家の家財がそのままになっていることもあるので、コミュニティのメンバーや自治会の方などが皆で片付けてやってきた。契約関係は不動産屋に入ってもらっている。萩市の場合は空き家を持っている方に補助金が出るようになっている。事前に家の補修ができる。周南市の場合は移住で来られた方に補助金が出る。手直した綺麗な家を見て、入ってもらった方がよいのではと思う。家主の方も空き家は貸すが、自分の手はかけたくないという事情もある。市にこうした事情を考えてほしい。
- 三丘地域は、上下水道が整っているところと、そうで無いところがあり下水も本線に繋がらない箇所もある。浄化槽の設置の補助金が出るが、順番や予算の問題もある。移住の取組をしている地域には、早く補助金が入るようにしてほしい。
- 市長の市政方針の中にも人口減少対策とあり、期待している。人事のことになるが、移住を担当の部署を設け、人や予算をつけていただきたい。萩市に視察に行ったが、移住担当が 4 名いた。専任の体制があり萩市は移住者が増えている。三丘小学校の生徒数は、40 人は切りたくないという目標だったが、今現在 39 人である。来年の入学は 2 人になる予定である。
- 先日の議会で、議員が周南市の魅力を出すには、横並びではダメで、周南市はこれが一番だということを考えてはどうかと言われた。移住の関係もいろいろな案を設け、県内で周南市が一番になるような制度を作ってほしいと思う。
- 周防大島町では、道の駅で移住の PR をしていた。周南市にはソレーネがあるので移住のブースなども設ければよいと思った。学費とか医療費等については、どこの自治体も補助をしているので、道の駅を利用して移住の PR を考えてほしい。
- 市役所の中だけで考えるのではなく、地域に出向いて、地域住民と移住される方の目線で考えてほしい。おためし住宅になる物件の候補もある。また、道の駅を利用した PR も案もあるのでぜひ声をかけてほしい。中山間地域に出ている補助金があるが、熊毛地区には団地を除けば、中山間地域と変わらない地域も存在する。全市を挙げて、取組を進めればいい方向になると思っている。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 今言われた、人事、予算、道の駅ソレーネでの PR のことをよく考えていこうと思う。

移住についてはシティネットワーク推進部が所管している。これまでは、空き家対策の中心を進めていた。若い人、子供たちを受け入れるということは、いろいろなエネルギーがあるので、その中で事業を考えているところである。

- 三丘地区の皆様が熱心に取り組んでおられる事をよく存じ上げていたし、その活動に対しては敬意を表している。市も一緒にやっていかないといけないと感じている。周南市も多くの地域があり、それぞれの地域でお試し住宅や、里の案内人の協力をいただきながら事業を行ってきたが、なかなかうまくいかないところもあるが移住は県内の中でも中位くらいである。人口減少を止めるには高齢者に長生きをしていただくこと、子供がたくさん生まれること、市外から入ってもらい、市外に出ないよう対策することしか人口減少を止める事はない。その中の1つで赤ちゃんをここで産み、そして育ててもらうこと、市外から来ていただくことをやっていかないといけないと思っている。子育てに関しては、周南ならではのことをたくさんやっているが、議会でもPRがうまくないと言われたが、広報やシティプロモーションを通じながら啓発していこうと考えている。

- ※ 三丘スタイルのおもてなしは、すごく参考になるなと思った。コロナ禍で動きが取れないこともあったが、今年に入って積極的に動けるようになり、県外のイベントに出て、直接の個別相談などを受けて、移住者を呼び込んでいくこともしている。

先般のイベントでも、オーダーメイドツアーを案内し、これから紹介することになっている。県内で、周南市の補助金は他市に劣っている面もあるので、今後に抜きん出てやっていかないといけない部分を担当で精査をし、検討を進めているところである。

現在、周南市はシティプロモーション課では4人体制で、移住、シティプロモーション、ふるさと納税の業務を行っている。地域づくり推進課の中にも中山間地域振興室もあり、中山間地域振興室と一緒に連携しながら移住に取り組んでいる。以前はお試し暮らし住宅もあったが、コロナ禍で現状維持も難しく、また家主の意向もあり現在は無いが、今後、空き家バンクに登録があるものや埋もれている空き家を地域の方と相談しながら検討も必要ではないか考えている。今日はいろいろな提案をいただいたので来年度に向けて何をすべきかしっかり検討していきたい。今後も、忌憚のない意見をいただきたい。

(4)市の体制について

【地域】

- 竹の粉碎機の活用については、昨年市長のところへ伺って、岩国市が持っている粉碎機の例や、山口県が助成金を出している竹の粉碎機の件を説明した。三丘のゆめ広場は民地であるが、奥側の竹林も含めてコミュニティが協定を結び管理を行っている。竹を切るのはいいが、どこに持っていかかが課題である。
- 市内の企業や団体などから竹の需要についていろいろ話をいただいている。今年も、山口県環境保全事業団の補助金の申請をして補助金をいただいた。これを活用して竹を伐採して出せる体制を作りたいと思っている。
- 竹の問題は、三丘地区だけでなく周南公立大学でも竹の問題があると聞いているので、今後竹を活用する事業もいろいろ展開してくるだろうから、ぜひ、先進をきって市が粉碎機を購入し、地域で使えるようにしてほしい。竹の活用が地域の財産になるように取り組んでいきたい。

- 小麦の製粉についても、県が「せときらら」という小麦を推奨しているのに、製粉するところが県内に無いので、地域ビジネスについても、地域で画策している。市でも検討してほしいと考えている。我々もまた提案していきたいと思っている。
- 熊毛の他地域でも、竹を使ってメンマをつくる講習をされていた。竹の問題については、各地でいろいろある。検討を是非お願いします。
- 竹の一部は、動物園でゾウの餌にもなると聞いた。地域の資源をいろいろなところで活用できる仕組みができればよい。

【市長】

- 竹の問題は、以前しっかり聞かせていただいた。市内でも、各地で問題となっているので、粉碎機については、充分でないかもしれないが小型のものの検討を進めていると思う。活用方法は、いろいろあると思うので、地域活性や地域経済につながるように検討していきたいと思う。一緒に考えていきましょう。